



歌志内市の資産活用案

2016/2/19

株式会社ライブログ 代表取締役CEO 元木一朗



自己紹介

- ▶ 1986年3月から30年間、競技スキーをやりにかもい岳へ
- ▶ 1992年から三菱総研、理化学研究所、経済産業省、産総研ベンチャーなどに在籍し、現在はITベンチャーを経営
- ▶ 大企業、特殊法人、中央官庁、ベンチャーなど、様々な組織の中から見てきている
- ▶ 専門はバイオテクノロジーとベンチャー育成

公務員とは？

- クビにならない
→クビにならないなら、大抵のことはできる
- 前例主義（官僚的）
→前例のないことをやるだけで注目される
- 失敗するくらいならやらない
→歌志内では失敗したってどうってことはない（無責任はダメだけど）

中央官庁を大雑把に表現

- ▶ 厚労省、農水省、文科省など（防衛官庁）
 - 規制強化
 - 天下り先創出
- ▶ 経産省（攻撃省）
 - 規制緩和
 - 新規予算（天下り先創出もやっているけどね）

歌志内に必要なのは「攻撃」でも、その前に、内外の現状を確認

経産省でキャリア官僚をやってみて

- ▶ いきなり代表として会議に出席
- ▶ 最初の一年間で情報収集
- ▶ 次の一年間で新規予算獲得
- ▶ 課長補佐までは優秀な人材が豊富
- ▶ 徐々に邪悪になる
- ▶ 同僚たちの1/3は退職
- ▶ 月間400時間残業など、過酷な一面も（15時間×30日で450時間）

- ▶ 一番大事なのは統計の部署だと思う

日本の状況

- ▶ アベノミクスはインフレ誘導に失敗し、完全に失速
- ▶ かつての巨大企業も徐々に退場（カネボウ、シャープ・・・）
- ▶ 少子高齢化

→ 抜本的改革が行われず、古くからの慣習を良いものとして放置。その結果、沈みゆく船である。

官僚主義のマインド

- ▶ 年功序列
- ▶ 前例主義
- ▶ 権威主義
- ▶ 形式主義

「何もしないためには全力を尽くす」

「やったらやりっぱなし」

ただし、権限があるので、好きなことをやっている間は絶大な能力を発揮することができる。



歌志内の状況

- ▶ 人口減少・高齢化
- ▶ 地方交付税減少
- ▶ 基幹産業喪失・産業衰退

→日本の未来を先取り（ただし、残念な意味で）

歌志内で何をすべきか

- もちろん、すでに存在する市民の生活を維持していくことは大切
- その上で、市外への働きかけが必須（鎖国状態では衰退するのみ）
 - 人を呼ぶ
 - ものを作る

「そんなことは、いわれなくてもわかってる」
もちろんわかっていて、できないでいるはず

諦めたらそこでゲームセット

- ワールドカップ湯沢苗場大会の選手たち
 - 一流選手は動かない。特に上半身は動かない。
 - 本当に動いていないのか？
 - すごいスピードで滑っているのだから、そんなことはない。
 - 動いていないように見えるだけで、実際は凄く動いている。
 - 無駄な動きがないので、目立たない。
 - そのレベルにいていない日本選手はバタバタしていて、二本目に残れず。
 - しかし、それでもなお、挑戦しているし、挑戦がなければそこで終了。

→歌志内はどうなのか？頑張っているのか？ジタバタしているのか？

新規施策は根性論

- やれそうなことは全部検討（実はこれは結構楽しい）
→「あれが難しい」「これがネック」をどう打開するか
- やれるなら全部やる（これは結構大変）
→日本のアルペンスキーヤーたちも、挑戦を続けてきた。ほぼ全員壁にはね返されてきたけれど、挑戦した事実は引き継がれる
- 目標を決めたら、どうしたら実現するかを徹底的に考えてみる
→やはり、諦めたらそこでゲームセット



施策の方向性

- ▶ 今いる人達が参加できる
 - ▶ 継続性が期待できる
 - ▶ 歌志内に人が来てくれる
 - ▶ 市外への働きかけがある
 - ▶ 市の雰囲気明るくなり、将来に希望が持てる
-
- ▶ ボランティアはダメ

参考：なぜボランティアがダメなのか

- ▶ 経済をまわさない（共産主義的）
- ▶ 労働力の搾取
 - ▶ 日の出テレビ「やりたいという人がいるんだからタダで良い」
 - ▶ サッカーワールドカップ、五輪も同じ
- ▶ もし利益があがった場合、悪感情を残す

歌志内には何があるのか？

- ▶ スキー場（ただし、アクセスが悪い）
- ▶ 炭鉱（ただし、廃坑）
- ▶ 土地
- ▶ 人（ただし、高齢化）



活性化に向けた具体案（ジャスト・アイデア）

- ▶ 企画1 マラソン大会
- ▶ 企画2 スキー場を核としたクラスター構築
- ▶ 企画3 企業誘致のための特区化
- ▶ 企画4 陶芸の街

マラソン大会の開催

- ▶ 今はマラソンブームで集客が容易
- ▶ 時間制限を緩める
- ▶ 近隣市町村と連携して、年間6～12戦のシリーズ化など
- ▶ 「毎月マラソン」「100キロマラソン」「冬季マラソン」「スキーマラソン」

→ただし、交通整理や安全対策、緊急対応などには配慮が必要。決して楽しいだけではない。

スキー場を核としたクラスター構築

- ▶ 今のスキー場は一時の勢いがない
- ▶ 砂川まで来ても、そこからのアプローチが難しく、道外や海外からの集客が困難
- ▶ ナイターも採算があわない
- ▶ サービス業（リフト、ホテル、飲食）だけでも限界あり
- ▶ しかも、冬季限定
- ▶ ワックス開発、スキー板開発など、関連産業にも可能性あり
- ▶ 日本スキー場開発（神戸大スキー部OBの会社）へ相談？

→ただし、スキー界全体が勢いがないので、追い風はない。また、雇用を産んでも、雪がない期間については検討が必須である。たとえば滞在型予備校とか。

企業誘致のための特区化

- ▶ 法人市民税、固定資産税0円
- ▶ 企業誘致で一番効果が期待できるのは税制優遇
- ▶ 「さすがに難しい」と誰もが考えるところにブレークスルーがある
- ▶ 税収増以前に、まずは人を集めない
- ▶ 特区化を検討開始するだけでも企業から注目される
- ▶ 「何かやろうとしている」という雰囲気を作ることも大切

→もちろん、中央官庁や政治家への働きかけや、そのための勉強は不可欠である。

陶芸の街

- ▶ 北海道にはなぜかあまり陶芸村がない
- ▶ 設備投資は莫大というほどではない
- ▶ 都内では女性に人気
- ▶ 高齢者も参加できる
- ▶ 有名陶芸家を数ヶ月招聘し、住居や設備を提供するとか
- ▶ 陶芸教室を併設すれば、市民の参加も期待できる
- ▶ 石炭を使う窯を作れば、「歌志内ならでは」をアピール可能

→ただし、ある程度の先行投資は必要になる。

A dark grey arrow points to the right from the left edge of the slide. Below it, several thin, curved lines in shades of blue and grey sweep across the left side of the slide.

若い人を呼ぶのに必須なもの

- インターネット



ワンポイント

- ▶ 同一労働同一賃金
- ▶ 差別なし（性、年齢、国籍・・・）

→こういった、誰もが共感できる、しかし実現が難しい理念を打ち出すことができれば理想的である。

歌志内の隠れ資産

- かもい岳で合宿をした大学スキー部のOBたちが、今も社会で活躍中
 - 一橋大、東工大、甲南大、昭和女子大、日体大・・・
 - 一橋なら弁護士、会計士、大手銀行、世界銀行、三越伊勢丹・・・
 - 東工大なら日立、東芝、大手銀行、証券、日本航空、三菱地所・・・
 - また、スキー部つながりで東大、神戸大などとも人脈あり

たとえば、俺

- ▶ 冬の間だけの職員
- ▶ 完全フレックスタイムで週40時間以上勤務
- ▶ かもい岳温泉に宿泊
- ▶ 給料は完全能力給

→午前中はスキー

最後に

「少年はいつも動かない。世界ばかりが沈んでいくんだ」（野田秀樹）

世界は沈んでいくもの。日本も沈んでいく。その中で、同じ場所に居続けることはとても大変。ジタバタしなくちゃならない。

「同じでいること」と「何もしないこと」は同じではない。何もしなければ、世界とともに沈んでいく。